【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成18年10月19日(2006.10.19)

【公開番号】特開2005-115114(P2005-115114A)
【公開日】平成17年4月28日(2005.4.28)
【年通号数】公開・登録公報2005-017
【出願番号】特願2003-350419(P2003-350419)
【国際特許分類】
Ｇ０３Ｇ　15/20　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０３Ｇ　15/20　　１０５

【手続補正書】
【提出日】平成18年8月31日(2006.8.31)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
加熱部材を内蔵した加熱ローラと、
前記加熱ローラを押圧する加圧ローラと、
前記加熱ローラと当接するクリーニングウェブと、
未使用の前記クリーニングウェブを巻き付けた元巻軸と、
使用済みの前記クリーニングウェブを巻き取る巻取軸と、
を備えた定着装置において、
前記元巻軸の一端を軸支する第１の支軸と、
前記元巻軸の他端を軸支し、前記元巻軸に対して軸方向に退避可能な第２の支軸と、
前記巻取軸の一端を軸支する第３の支軸と、
前記巻取軸の他端を軸支し、前記巻取軸に対して軸方向に退避可能な第４の支軸と、を設けたことを特徴とする定着装置。
【請求項２】
前記第１の支軸は巻き付けた前記クリーニングウェブが引き出される際の抵抗となる摩擦部材を有し、前記第３の支軸は所定の駆動源によって回転駆動されることを特徴とする請求項１に記載の定着装置。
【請求項３】
前記第２の支軸を前記元巻軸に対して軸方向に退避させる第１の操作部材と、
前記第４の支軸を前記巻取軸に対して軸方向に退避させる第２の操作部材と、
を設けたことを特徴とする請求項１又は請求項２に記載の定着装置。
【請求項４】
前記第２の支軸を前記元巻軸に係合させる方向に前記第２の支軸を付勢した第１の付勢部材と、
前記第４の支軸を前記巻取軸に係合させる方向に前記第４の支軸を付勢した第２の付勢部材と、
を設けたことを特徴とする請求項１～３の何れか１項に記載の定着装置。
【請求項５】
前記第１の支軸に巻回され、該第１の支軸に回転抵抗を与える、断面形状が四角形の線材で形成されたねじりコイルばねを有することを特徴とする請求項１に記載の定着装置。

【請求項６】
前記第１の支軸に巻回されたねじりコイルばねの外周部及び内周部が、前記第１の支軸の軸方向に沿って略一直線に形成されたことを特徴とする請求項５に記載の定着装置。
【請求項７】
加熱部材を内蔵した加熱ローラと、
前記加熱ローラを押圧する加圧ローラと、
前記加熱ローラと当接するクリーニングウェブと、
未使用の前記クリーニングウェブを巻き付けた元巻軸と、
使用済みの前記クリーニングウェブを巻き取る巻取軸と、
を備えた定着装置において、
前記元巻軸より前記クリーニングウェブが引き出される際の抵抗力となるねじりコイルばねを設け、
該ねじりコイルばねは断面形状が四角形の線材より形成され、且つ、巻回された前記ねじりコイルばねにおける軸方向の複数の外周部及び内周部は略一直線に形成されていることを特徴とする定着装置。
【請求項８】
請求項１～７の何れか１項に記載の定着装置を備えたことを特徴とする画像形成装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１５】
請求項１～６に記載の定着装置、請求項８に記載の画像形成装置によれば、使用済みのクリーニングウェブを全て巻取軸に巻き取った後に、新たなクリーニングウェブに交換する際に、簡単な構成で且つ小スペースで、巻取軸と元巻軸を容易に脱着、交換できるので、メインテナンス作業の効率が向上、場合によってはユーザーであっても交換作業をすることができる。また、クリーニングウェブのみを交換でき、元巻軸、巻取軸及びねじりコイルばね等は廃棄せずに何度も使用可能であるので、非常に経済的である。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１６】
請求項７に記載の定着装置、請求項８に記載の画像形成装置によれば、クリーニングウェブが引き出される際の抵抗力となるねじりコイルばねが容易に摩耗することがなく、その交換頻度が著しく低減する。